

6 月報(2021 年) 萌 カトリック福山教会



福山教会活動テーマ：

「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

〒720-0808 福山市昭和町 7-26

☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615

e-mail : fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

21 年度責任チームの紹介

伊藤 望

本来なら 5 月 16 日の信徒総会で皆さんに、退任者、新任者の紹介、ご挨拶をする予定でしたが、コロナ感染症の関係で、紙面により紹介します。(敬称略)

「退任者」(平和) 富田恵子 ディン・ティ・ダプ (養成) 藤本洋子

(きょうどう) 田中靖 千種真一 佐藤紀子

「新任者」(平和) 大城誠一 マイ・ティ・ヒエン (養成) 大内恭子

(きょうどう) 富山信行 梅田理栄子

また新たに援助マリア会代表として Sr 吉岡知子が就任されました。

お分かりのように、この度の責任チームの特徴として大城さんとヒエンさんの二人が外国出身者としてメンバーに入ってくださいました。今までもそのような例はなかったわけではありませんが、福山教会が多文化共生の場としてますます生きるとチャンスが与えられたと思います。この 1 年の歩みが実りあるものとなりますようにどうぞ皆様のご協力をよろしくお願いします。

洗礼式がありました。受洗おめでとうございます！

お母さんは、ベトナム出身のチャンさん。赤ちゃんの洗礼名はペトロ名前はカイン君です。お祝いに寺神戸亮様がバイオリン演奏をしてくださいました🎵
これからもどうぞよろしく願いいたします。



【信仰を生きる】

内野 則子

私の信仰はまだ胸の張れるものではありません。

自分の力不足が悲しくて悩み、少しでも自信が持てたらと教会に通い始め、当時小学生だった娘に背中を押された形で洗礼を受けて40年。過ぎてみるとあっという間です。些細な事でも気になり落ち込む性格は未だに健在でそう簡単に変わるものではありません。とは言え教会に行きミサに預かり年を重ねる内に少しずつ変化もしてきました。何でもお見通しの神様がおられるから背伸びして気取らなくていい。いつもそばについて見守ってくださるから弱点だらけでもありのままの自分でいい。神様は真実な方だから自分に出来る事を頑張るしかないと悟られます。今までどんなに許され、励まされ、勇気を与えられたことでしょう。

私には2人の娘にそれぞれ3人の孫がいます。同じ親から生まれても6人6様で社交的な子もいれば人の陰に隠れる恥ずかしがり屋の子、運動の好きな子もいれば苦手な子。勉強の好きな子、好きでない子。それぞれが生まれ持っているものが違うのがよくわかります。日々成長しながら変化もし、それなりに与えられている個性があります。一人ひとりの存在そのものが大切に神様はどんな人でも間違いなく愛してくださると信じられる事は私の財産です。一喜一憂する必要はなく神様を信じていればいいのです。

人生の終盤に差し掛かりこれからますます心穏やかに過ごせる事は何物にも代えがたい幸せと感じています。

南相馬便り㊿2021年5月

援助マリア修道会南相馬修道院 北村令子

いつの間にか若葉も過ぎてこいのぼりの季節になってしまいました。

皆様、連休があっても相変わらずお忙しい頃と存じます。

3.11と聖火リレーが終わって、宮城県、福島県はコロナが急増という現象が起きました。やはり人が動くとコロナは増加するのですね。つながりを求め、絆を強めようとするとう感染拡大というリスクがあり、なかなか難儀なことです。

3.11の十年の行事が終わりました。でも一つの区切りではあっても、終わりではないのです。お願いします。これで福島は復興したのだと、終わりにしないでください。被災者にとって、あの日は昨日のここのよう、区切りという感覚はありません。確かに前に進んでいます。

聖火リレーの最後の方で南相馬を走られたある被災者の方は、津波でご両親と8歳の娘と6歳の息子を一度に亡くし子供はまだ遺体が見つからないままです。この方は長い間、マスコミの方が来られても頑なに口をつぐんでおられ、原発事故のため、居住禁止区域にもかかわらず、元の場



所に家を見て、周りの田んぼを菜の花畑にして、子供たちが遊べるように菜の花畑の迷路を作って、五月の連休などには大勢の子供たちが、きれいな真っ黄色の花畑の迷路を楽しんでいました。昨年コロナで残念ながら公のイベントはできませんが、菜の花畑はきれいに咲いています。今年は公開できるようです。(写真)

この方も少し前からマスコミに応じられたり、この間の聖火リレーでは、「この青空の上から、両親と子供たちが応援してくれている」と言われるまでになりました。震災の時、奥さんは妊娠中で、子供が生まれられたのが一番彼にとって生きる希望となったのでしょうか。

ずいぶん前向きな気持ちに変わって来られたと思います。

また、こんな方もおられます。大熊町の自宅の土地は中間貯蔵施設の用地に含まれ、施設には連日、大量の除染廃棄物（放射線量の高い）が運び込まれています。「帰る家もない。それでも戻りたい・・・」帰還はあきらめても、心は古里とつながったままなのです。原発事故により、町は大きく変容していますが、将来の姿がどうなっていくのか思い描くことすらできないのです。「国は私たちの思いをくみ取るつもりはないのか。なんだか置いてけぼりにされているみたい。」「苦しくて胸が張り裂けそうになる」と。

3.11の十年を記念する番組で、津波で奥さんを亡くされたおじいさんが、毎日365日、自宅のあったところを見渡せる高台（ご自分が逃げて上った高台）から、「おかあさ～ん」と叫んでおられる姿が放送されました。たまたまその日は病院に通院していて、津波が来た時すぐ近くの高台に逃げて助かったそうです。奥さんは海岸に近い自宅で流され、遺体が上がらないままで、今日まで毎日、きっとこれからも毎日、奥さんと呼んで過ごされるのでしょうか。本当に胸が張り裂けそうです。

被災者の方の中には、もう被災者ではないと言われる方もおられますが、それでも心の底には、多くの解消できない苦しみ、悲しみ、悔恨が沈殿していることでしょうか。そして頻繁に起こる余震に嫌でも思い出さされるのでしょうか。

十年は過ぎましたがまだ終わりではないのです。一番恐れていることは、復興オリンピックと復興を宣伝して、一人一人の痛みなどが置き去りにされることです。忘れ去られることです。どうぞ忘れないでください。お願いします。忘れないでください！5月の明るいこの時に、ちょっと湿っぽくなってしまいました。でも、どうしても忘れないで！と伝えておきたかったです。

もっともとお伝えしたい事はありますが、今回はここまでとします。

6月・7月の行事予定

6 月		7 月	
4 (金)	ダン神父様叙階記念日 →延期 (司祭叙階 10 周年)	2(金)～ 3 (土)	聖園合宿
6 (日)	キリストの聖体	4 (日)	平和の使徒推進本部会議
11 (金)	イエスのみ心	18 (日)	街頭募金 日曜学校終業式
20 (日)	父の日	24 (土)	定例委員会
24 (木)	洗礼者ヨハネの誕生	25 (日)	墓地ミサ (教会 7:00 ミサなし 雨天 8/1)
26 (土)	定例委員会		
27 (日)	聖ペトロ使徒座への献金 ダン神父 黙想会 (29 日迄奈良)		
29 (火)	聖ペトロ聖パウロ		



緊急事態宣言でミサ非公開は6月20日(日)まで延長となり、さらに梅雨という季節を迎え、なおさら心が沈んでしまいそうですが、よく周りを見渡せば、蛍が飛び交う幻想的な夜だったり、梅雨の季節にピッタリのアジサイや花菖蒲が咲き乱れ、世の中はしっとり美しい…私たちの身の回りにある“良いもの探し”をしてみましょ♪

月報委員会より